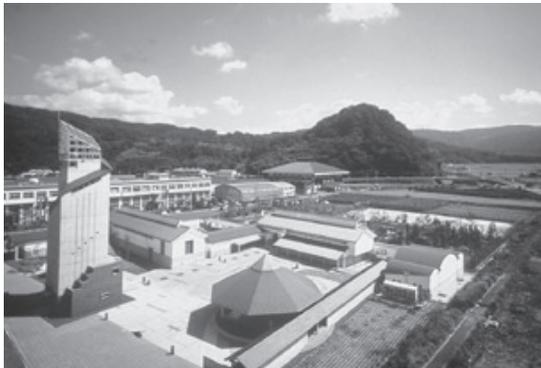


因幡万葉歴史館



鳥取藩主池田家墓所



雨滝と因幡の傘踊り



河合谷高原



万葉歌人・大伴家持が因幡の国の国守として、因幡国庁で詠んだ「新しき年の…」の歌は、日本最古の歌集「万葉集」の最後を飾る歌として知られています。その舞台となっている『万葉のふるさと』国府町は、因幡地方の中でも、古くは弥生時代にまで遡る、早くから開けた歴史と文化の風薫る町です。

「史跡因幡国庁跡」をはじめ、国内最古の変形八角形墳に方形壇をもつ「史跡梶山古墳」、エントランスの柱を持つ謎の石造建築物「岡益の石堂」や、武内宿禰命を祀った因幡一ノ宮「宇倍神社」、江戸時代の歴代藩主が眠る「鳥取藩主池田家墓所」など、学術的価値の高い貴重な史跡が数多くあります。

文化・観光と生涯学習、そして地域活性化の拠点施設である「因幡万葉歴史館」では、大伴家持をはじめ、因幡地方に古くから伝わる「麒麟獅子舞」や雨乞い踊りを起源とする「因幡の傘踊り」など、独自の民俗芸能を中心に紹介しています。

また、国府町には、中国山地の秀峰「扇ノ山」を背景とする緑豊かな美しい自然もたくさん

あります。山ろくに開ける「河合谷高原」は、放牧場や夏大根の産地として知られており、日本海も見渡せる眺望は絶景です。

日本の滝百選にも選ばれている「雨滝」は、落差が40mにおよぶ県内随一の名瀑で、断崖絶壁から落水する神秘的な景観は、山あいの幽境として訪れる人々を魅了します。6月4日（土）には、恒例の滝開き祭があり、神事や「因幡の傘踊り」などの奉納を行い、1年間の安全を祈願します。

さらに、殿地区の袋川に、平成23年の完成をめざし建設が進められている殿ダムは、洪水被害の防止や下流域の水道・工業用水の確保、発電といった機能を有する多目的ダムです。その周辺では、整備された清らかな川を利用して「国府マストゥリフェスタ」などのイベントも開催されます。

このように、国府町は、歴史に彩られた豊かな文化と自然を身近に感じる「万葉ロマン」あふれる町です。みなさんも国府の魅力を感じてみてはいかがでしょうか。